

敬老祝い金条例に反対する各会派の態度（賛成○ 反対●）	○ ○ ● ● ● ● ●
日本共産党	
一票の会	
自民党	
港区民ク	
公明党	
かがやき	
元氣会	

日本共産党区議団七名と一票の会の八名が共同して提案していた「敬老祝金の支給に関する条例」（七十才以上の方全員に七千円を支給する）が、第三回定例区議会最終日の九月十七日の本会議で、自民、区民クラブ、公明党、かがやきなどオール与党によって否決されました。これは、「敬老祝金」の復活を望む声を受け、共産党区議団と一票の会が共同して「条例」提案していたものです。

敬老祝金は、七十五才以上の方の長寿を祝い「敬老の日」を前にして民生委員さんを通じて渡され、大変喜ばれていました。ところが菅谷区政は「財政危機」を口実に九七年度（平成九年度）から廃止しました。都心区で廃止したのは港区だけで、現在十区で引き続き支給しています。これはお金の問題ではなく、高齢者の長寿をお祝いする気持ちの問題です。九月三日に開かれた保健

お年寄りに冷たい姿勢

自民・公明など

## 敬老祝金復活をめざす

日本共産党区議団の八名が共同して提案していました。

西武鉄道へ再度申し入れ

いのくま正一区議は、西武鉄道（株）が芝公園の中に計画している地上百メートルの超高層ホテル建設について、九月三日、「芝公園を守る会」とともに、誠意をもって引き続き説明会を行うことを、申し入れました。これにもとづいて西武鉄道は、九月二十九日に三回目の説明会を開催しました。しかし、丸山古墳群などの学術調査をおこなうことには約束したもの、質問や意見に誠意をもって答えようせず、交通量や、水害対策、など芝公園の環境を守る問題をはじめ、この間、大きな問題になつている文化財の保全、埼玉へもち去つた貴重な文化財を芝公園に戻すべき、との意見にまったく耳をかさず、「今回のホテル建設とは関係ない。戻すつもりはない」という態度に終止しています。

とともに、四〇数年前に西武

鉄道が、東京プリンスホテルや埼玉へ移設された御成門

西武鉄道へ再度申し入れ

ゴルフ練習場などを建設する際に、計画地内の文化財を埼玉へ移設し丸山古墳群も破壊したのです。この事実は多くの住民・関係者の知るところです。

また、具体的資料をもとに質問しても、「私どもの社内には、以前の開発に関連した文化財関係の資料がないのでわからない。調査したい」との答えしかせず、とともに調査した形跡はありません。

しかも、九月二九日の説明会は、午後一〇時一五分を過ぎ、質問が続出しているにもかかわらず、「これ以後の説明会はいたしません。終了します」と一方的に打ち切ろうとしました。説明会参加者は、「こんなに遅い時間になってしまった。明日の仕事にも影響がでてしまつ。質問もまだあるので本日は休憩とし、土曜日開催も含め改めて説明会すべき」と説明会参加者の総意を示して会場を後にしました。

この経過からしても、事前の説明会が終わつたとは、とても言えません。西武鉄道が、「芝公園の整備」を真剣に考えているなら、住民が質問している内容に誠意をもって答えるべきです。

いのくま正一区議は、文化財の復元と芝公園を守るために、引き続き、事前の説明会の開催・統一会を強く申し入れました。

福祉常任委員会で「敬老祝金条例」が審議されました。まともに質問、審議がされないうちに、自民党、公明党などが多数で「条例」を否決、引き続き本会議での否決となつたのです。

敬老祝金支給の復活に必要なお金は約一億三千万円。九八年度決算の剩余金は約二十八億円ですから、そのわずか四・六%です。日本共産党区議員団は、区民のみなさんと力を合わせ実現のため引き続き全力でがんばります。

このままで相談を

ここまで「保険料あつて介護なし」

「保険料や利用料はどうなるのか?」「介護を受けたい人は誰でも受けられるの?」「特別養護老人ホームは入れるのか?」などなど、今、不安と疑問の声が上がっています。

来年四月実施の介護保険制度ですが、一番の問題は、今まで国と自治体で負担していた費用を、四、五〇〇億円も削つて、国民からは保険料を二兆円も取り上げる内容にあります。

しかも、特別養護老人ホームなどの基盤整備が遅れ、入りたくても入れない状態です。また、介護サービスを受けないと申請しても、要介護認定がされなければ、サービスは受けられません。

日本共産党は国会、都議会、そして港区議会でも、誰でも安心して受けられる制度への改善を要求しています。力を合わせて実現しましょう。

介護保険に関するご相談を受けています。不安なことや、わからないことがありますしたら、お気軽に連絡ください。

いのくま正一です

日本共産党港区議員団

区政報告

No. 7  
1999年10・11月

〒105-8511  
港区芝公園1-5-25  
FAX 3578-2947

いのくま正一は 日本共産党



宝塔も埼玉へ移設された

# 第三回定期例会開かれる

第三回定期例会は九月八日から十七日まで開かれました。

共産党議員は沖島区議が代表質問、熊田区議が一般質問を行いました。

代表質問では、①都が発表した「福祉、教育など都民生活を直撃する大幅削減計画」の見直しを区として要求すること。②福祉館など公共施設の見直しは区民の声を聞き再検討を、③子育て世代向け低賃貸住宅の建設を進めること。④緊急に必要な中小企業への支援を強めること。⑤都市型水害被害者への救済策と下水道対策など今後の対策の強化を、⑥児童の登下校時の交通安全対策をしっかりと行うこと。⑦三田地域の学校統廃合を白紙に戻すこと。などについて区長、教育長に質問しました。

熊田区議は、十月から認定審査の受付がはじまる介護保険について、①特養ホームなど介護施設を前倒しで建設すること。②区がホームヘルプサービスの事業者になること。③デイサービスを気軽に受けられるようにするため、空き教室や福祉会館を活用すること。④区独自で保険料・利用料の減免制度を、⑤現行福祉水準を後退させない具体策を示すこと。⑥生活実態や住宅事情などを総合的に判断できる調査を行うこと。⑦東京都に高齢者福祉手当の継続を求める。などについて質問しました。

## 新ガイドラインに協力しないこと

## 消費税を3%にもどすための請願

**自民、区民クラブ、公明、かがやきが請願を否決（ガイドライン）**

## 日本共産党は採択を主張

新ガイドライン関連法に反対する連絡会を中心、港区として戦争協力を拒否することや、政府に対して有事立法に反対する意見書を提出することなどを求める請願が、九月の定期会に五九本だされました。また、不況打開のために、消費税を3%にもどすための請願もだされ、総務常任委員会に付託されました。

ガイドライン関連の請願審議では、自民、公明、民主、かがやきの各委員は、自治体と区民や民間企業を戦争に協力・動員する問題について、「ガイドラインは必要」と強弁し、請願を否決しました。

ガイドライン関連法が強行されて以来、全国の知事会での意見交換や関連業界団体への解説案配布など政府は自治体・民間への協力の具体化の作業を怠っています。この動きに対して多くの自治体や民間で働く方々などから懸念や不満の声がでています。

港区議会としてもガイドライン関連法による、自治体と民間を戦争に協力・動員しようとする政府に対し、協力の拒否と自治体の意向を尊重するよう決議し意見書を出すことは重要です。

消費税の問題では、消費税を導入した一〇年前の政府の言い訳

は「これから高齢化社会がやってくるので、福祉を充実するためには消費税が必要だ」というものでした。消費税が導入されてからこの一〇年間、国に入った消費税は総額で七一兆円です。ところが高齢者対策で使った金額（新ゴールドプラン）は、たった五兆円です。消費税収入のわずか七・四%です。この一〇年間で、社会保障費は、一兆円しか増えていません。「高齢化社会のため」がいかにまやかしだったかわかります。高齢者の医療費は消費税導入後にも次々と改悪されました。

消費税を減税すれば次のよな景気への効果があります。

①2%で5兆円の減税効果があります。消費拡大に直結します。

②すべての所得階層に減税が及びます。特に所得の低い層をあたためます。

③中小業者の苦境を救います。

④民間住宅の投資や耐久消費財の需要を活性化します。

⑤雇用を拡大できます。

各種のマスコミの世論調査でも、景気回復の対策でトップは消費税減税です。日本共産党議員団は、一〇月にも請願を集中的に審議し、請願の採択のため引き続き奮闘していくります。

## 水害への対策を抜本的に強化せよ

八月二十九日夜、港区をおそつた集中豪雨は、高浜水門で一時間あたり百十四ミリという記録的な大雨となりました。この豪雨によって、古川が氾濫したり、各地の下水が機能マヒに陥りマンホールから逆流するなど、大きな被害が出ました。

九月三日現在、区の「被害状況調べ」によると、床上浸水百九十三件、床下浸水二百六十五件、地下浸水六十五件、道路冠水一二件、道路陥没十三件など過去にない被害となりました。これほどの被害が発生したのは、古川の総合治水対策の遅れや、下水道が開発に見合つたものになつてないこと、無秩序な都市開発がすめられていることなど、人災といつても過言ではありません。共産党議員団は、九月八日の代表質問で取り上げ、早急な対策を求めました。また「都市型水害対策についての決議」を提案し、全会一致で議決しました。

区議団は、災害復旧や生活再建への支援の強化、都市化に伴う雨水流出量の増加に対する下水道等の整備、古川の総合治水対策など、区民の生命と財産を守るために引き続きがんばります。

## 日本共産党推薦の栗橋伸次郎氏が選挙管理委員に初選出

九月十七日の本会議において、港区選挙管理委員（定数四名）及び同補充員（定数四名）の選挙が行われ、

選挙管理委員に、日本共産党推薦の栗橋伸次郎氏（前区議）、補充員にも共産党推薦の池田一利氏が当選しました。共産党推薦の選挙管理委員は港区政史上はじめてです。

選挙管理委員の選挙では、日本共産党七名に加えて他会派からも、共産党推薦候補に投票しました。

これまでの選挙管理委員の選挙では、共産党を除く会派が票を調整し、区議会第一党の共産党推薦の候補者者が当選できないようにしてきました。しかし今回は、四月の選挙で定数が三十五に削減された中、共産党候補七名が全員当選をしたことから、どんなに票の調整をしても、共産党推薦者を排除することが不可能になつた結果です。

第三木曜日 芝病院 PM 6時30分から

毎月 第二木曜日 日本機関紙印刷所 PM 6時から

\*事前にご連絡いただけます。

電話 3578-12945